

決算審査特別委員会の審査から

9月定例会に提案されました平成22年度各会計の決算認定案は、決算審査特別委員会に付託され、議会閉会中に、現地調査を含め、3日間にわたり審査が行われました。

12月定例会初日に委員会審査の概要が報告され、いずれも原案のとおり認定と決しました。決算認定案の審査における質疑応答の一部は、次のとおりです。



委員による現地調査

一般会計・特別会計決算

問 市税の滞納整理に対する取組について問う。

答 預貯金や不動産などの資産調査により、836件の差し押さえを行った結果、9千500万円の納付があった。

問 地下水資源調査解析委託業務の内容と調査結果の活用方法について問う。

答 平成19年度から平成22年度までの4年間、愛媛大学などに委託し、地下水資源調査を行った結果、地下水の3次元的な流れが解析された。調査結果については、現在、資源調査委員会の中で取りまとめるなど、今後の地下水の保全に関する協議を進めている。

問 特定健康診査の結果、異常ありとされたかたへの指導について問う。

答 対象者全員に通知し、受診勧奨に努めるとともに、生活習慣改善のための指導を行っている。

問 緊急雇用創出事業委託料及びふるさと雇用再生事業委託料の不用額の合計が約4千800万円になった理由について問う。

答 予定していた時期に適した人材が見つからなかったことや、中途退職が生じたことに、直ちに補充することが難しかったことから不用額が発生した。

問 荒廃農地の解消策について問う。

答 水田を対象に10アール当たり7万円を助成し、平成22年度においては、補助対象者は7件で約1.96ヘクタールが解消された。

問 公共事業の契約において、業者の選定に係る地域性の考慮について問う。

答 地域要件なども考慮し、原則として市内業者の指名競争入札としている。

問 過疎地域防災情報モニターの人数及び寄せられる情報の内容について問う。

答 11地区に31人のモニターを配置しており、倒木や落石などの災害状況のほか、地域のかたの入院状況などについても随時報告を受けている。

問 博物館や郷土館は、それぞれが展示・貯蔵されているが、施設の統合あるいは新設を行う考えはないか。

答 1か所で管理するのが良いか、各地域の特色を生かしてそれぞれの施設で管理するのが良いか、市民からも意見を聞きながら検討していきたい。

問 苦しい経営状況が続く石鎚山ハイウェイオアシス館の方向性について問う。

答 重要な観光資源の一つとして認識しており、基金の有効活用も含め、じゅうぶん検討していきたい。

水道事業会計決算

問 地区により料金体系が異なっているが、水道料金

の見直しについて問う。

答 料金の統一については、現在、説明会を実施して市民の声を聞いている状況であり、使用料等審議会の答申を尊重しつつ慎重に進めていきたい。

病院事業会計決算

問 医療法人専心会の決算が黒字となっているが、市への負担金の取り扱いについて問う。

答 市と医療法人との基本協定に基づき、税引き前利益に対し、一定割合の負担金を納めてもらうことになる。



石鎚山ハイウェイオアシス館